

# http://nakayashiki.net がんばらる日本！負けぬいで東北！



なかやしき慎一チャレンジ報告 討議資料

## チャレンジ通信 2013

### なかやしき慎一

発行所 刷新の会 鴻巣支部  
 県議会議員 中野敬一  
 〒365-0039  
 鴻巣市東3-11-18-103号  
 TEL 048-541-8110  
 FAX 048-541-0256

地域が最前線! Saitama

vol. 23

### 陸月に思う

12月議会中に起こった民主党から自民党への政権交代。民主党政権への国民の厳しい審判が下った予想通りの結果とは言え、「コンクリートから人へ」も今となっては空しい響きだ。

長期的な経済低迷、未曾有の大震災と予想を超えるアゲインストの風が吹いたのも事実だった。しかし、それでも自らの保身や政党の都合に走ることもなく、国民のための政治を実現していくのが国会議員の役割である。私たち地方議員も、県民、市民のための政治の実現に向けた努力を、強く求められているという事を肝に銘じなければならない。



### 12月定例会 主な内容

12月定例会は、21日の最終日に、18才未満の少女少女に入れ墨を施す行為を禁止する県青少年健全育成条例改正(案)、国の地域主権改革一括法の施行に伴い、保育所や自転車レーンの設置に県独自の基準を設ける条例(案)、国家公務員退職手当の一部改正に伴う県職員の退職手当を引き下げる条例改正(案)などの知事提出議案46件を可決した。また、専決処分した28億円を超える衆議院議員選挙費用も承認した。そして、議員提出による決議については、隣国に不安を与えた「北朝鮮によるミサイル発射に抗議し、拉致問題の一刻も早い解決を求める決議」を採択し、意見書については、新しいエネルギー資源として期待される「メタンハイドレート」の開発を求める意見書」など5件を採択し、国会や関係各大臣への提出を決定し閉会した。



**Q** タトゥーと違ってファッションの要素で入れ墨を入れるような風潮がある中、今回の条例改正については賛成だ。そこで、実際に入れ墨を入れた青少年は、社会生活の中で具体的にどんな不利益を被っているのか？、また、条例改正を踏まえ、今後県としてどのように取り組んでいくのかお尋ねする。

**A** 青少年が被る不利益としては、入れ墨を理由に就職を断られたり、県営プールへの入場が出来ないなどの具体例がある。また、県としては、条例の改正趣旨を、入れ墨を施す店舗へ通知徹底すると共に、将来生ずるであろう不利益を理解しやすい資料を作り、中・高生の生徒指導時に積極的に活用してもらえようように取り組んで行く。

**Q** 平成25年度予算編成の基本方針の柱は、更なる成長につながる事業への重点化、モデル事業発信や民間活力の活用、そして事業の集中化などの手法検討、また、財源を確保し、財政の健全化を維持しつつ、県債残高を着実に減少させるとの事だが、この基本方針はどのように本県に経済効果をもたらすのか？

**A** 重点化では、引き続き三大プロジェクトを強力に進めると同時に、5か年計画の12の戦略に力を注ぎ、事業発信は、学生ボランティアの活用による、生活保護世帯の中学生の学習支援の取組のよいうな本県の新しい試みを発信する。また、一定程度の予算投入によって、この原理を生かした大きな投資を促せるよう工夫を凝らして行きたい。

**「なかやしきの思い」**  
 入れ墨をタトゥーと呼びファッショ的にとらえる。自分たちの時代には考えられなかった事だ。親から預かった自身の体にキズを付ける事にはためらわないのだとしたら怖い現実だし、それに公が対応しなければならぬ時代。なんともはやって感じてですね。

**「なかやしきの思い」**  
 中小零細企業が95%以上を占める本県の経済。これまでの蓄積疲労でのダメージが相当懸念される。起死回生の特效薬はなかなか見つからないかもしれないが、県庁の力を結集して活性化を目指し実効を上げなければ、財源不足は本当に深刻な状況だ。

### 視察報告

#### 平成24年10月17日 決算特別委員会視察

10月17日、埼玉県立がんセンターを視察した。本県の中核的がん専門医療機関として1975年に開設された県立がんセンターは、400床の病床数を誇る大病院だが、三大疾病の一つであるがん患者の増大により、多くの患者たちが治療を待っている状況が続いている。聞くところによると、初診まで一月以上待つこともあるらしい。

しかし、現在隣接する敷地に病床数500床の新病院を建設が進められていた。手術室の増設などにより機能強化を図るとともに、日本一患者と家族に優しい病院を目指し進捗している状況であり、今のところ当初予定の来年度12月オープンに支障はなさそう。巨費を投じての事業が効果を上げられるように監視して行きたい。



#### 平成24年10月18日～19日 議会運営委員会視察

いわき市久之浜地区で東日本大震災への対応状況を視察した。偶然にも久之浜は、震災後の6月にがれき撤去のボランティアでお訪ねした場所だ。震災時には火災も発生してしまっただけで、当時3カ月を経過していてもかかわらず臭い感じだったのを思い出した。火災後のがれきも撤去された地区の様子は、進まない復興を物語るかのようだった。しかし、海から離れた久之浜第一小の校庭に新設された、仮設の「浜風商店街」は多くの人でにぎわっていた。久之浜の人々の負けない気持ちは詰まった商店街だった。

厚木市の神奈川自然環境保全センターを視察した。環境保全センターは、自然環境保全のコアと丹沢大山のボランティアの活動拠点、そして神奈川県産木材のシンボル施設としてオープンしたとの事だ。環境学習にも利用されているとの資料があったので、質問してみると、年間12校程度の利用に留まっているとか。素晴らしい施設なので、多くの子供達がこの施設を訪ねられたらと思わずにはいられなかった。



2年続けさせてもらった決算特別委員、昨年度も指摘のあった時間外勤務。昨年度の最長はおよそ800時間。倍以上の長さが気になり質問してみると実態が明らかに。特殊な事情があったにせよ、だからこそ県庁の頭脳を駆使した工夫が必要だったと心から思う。要、改善!

2012年10月27日埼玉新聞記事

## 「県庁に住んでたの？」

県職員(知事部局の正幹以下約6300人の2011年度)の時間外勤務手当で、最も高い人は年間給与と同程度の約74万円が支給されていたことが、28日の県議会決算特別委員会で報告された。人事課によると、「この職員は税務課の40代男性で、年間の時間外勤務は1916時間。同課の別の40代男性は最長2017時間(時間外手当約74万円)働いており、県職員1人当たりの平均年間総労働時間(1874時間)と比べると、2人は通常勤務時間を上回る「残業」をこなしていることになる。

## 県職員 残業最長2017時間

支給金額はともかく労務管理上、問題がある」と指摘。人事課は「昨年7月に税務システムの切り替えがあり、その部署の職員を中心に負担が増えた。時間外勤務の多い部署については今後、具体的な削減策を作り、削減を図る」と述べた。同課の調べで、職員1人当たりの年間時間外勤務は平均1350.6時間だが、一部の職員の時間数が突出している。昨年度の時間外勤務は年間1千時間を超えた職員は同課を含む税務課6、財政課10、人事課4の計20人。昨年、システム変更という特別な状況があった税務課に対し、財政課と人事課は季節的な業務の差が激しく、慢性的に時間外勤務が多い傾向にあるという。

(沢田健行)

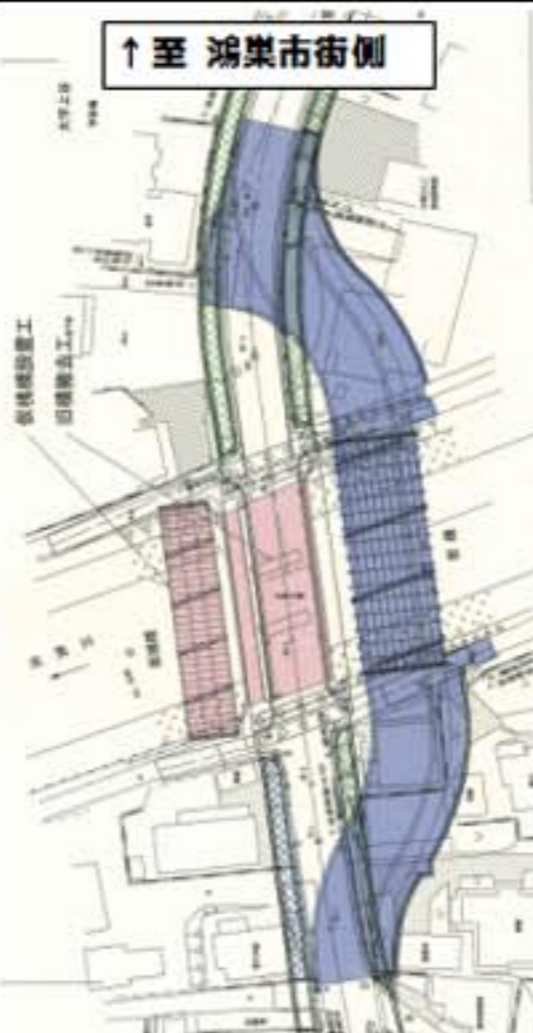
10/27に「YAHOO! ニュース」にも取り上げられ、2,000件にのぼるコメントが書き込まれた。

その多くが「民間企業では考えられない」や「残業代700万円払うのならもう一人雇ってあげた方が」「コンプライアンス意識は？」など



## ～工事進捗状況のお知らせ～ No.4

**加須鴻巣線(笠原大橋)** 今年度は、若干の遅れを見せていた仮橋の設置と旧橋撤去工、仮橋設置工がほぼ予定通り進められている。県内には築70年を超える架け替えの必要な橋りょうも残っていると。 「川の国埼玉」にとって橋の架け替えは、今後最も必要とされるインフラ整備になって来る。笠原大橋の架け替えが周辺地権者や地域の皆さんのご理解のもと進められているのは、私としても本当にありがたい。



↑ 鴻巣市街側から撮影 ↓ 交差点側から撮影

## 平成25年1月26日 於: クレアこうのす 「老後の安心を支える」 成年後見制度

NPO法人市民後見センター主催の「成年後見制度」推進講座に参加した。地元鴻巣で初めて開かれるこの講座は、法人のメンバーで鴻巣在住の中島竹夫氏の腐心による講座だ。氏の賢明なる努力には心から頭が下がる。私も、前任期最後の一般質問でこの問題の県のスタンスを質して以来、私の議員としての大きなテーマでもある。また、私自身介護の必要な母と暮らす中で他人ごとでもない。講師は東京大学政策ビジョン研究センターの特任研究員齋藤真由美先生。事例に基づく先生の話は、今まで私が参加した勉強会で一番わかりやすかった。今は、後見制度が福祉インフラとして定着するための準備段階。私も、今まで以上にしっかり取り組みます。



## 平成25年1月5日 於: さいたま市民会館うらわ 誇り高き日本の未来

教育者ネットワークと教育を考える埼玉県民フォーラムの共催勉強会で竹田恒泰先生の講演会に参加した。旧皇族・竹田家に生まれた氏は、明治天皇の玄孫にあたる。「日本を楽しく学び日本の輝きを取り戻す」を標榜する武田研究会を主宰する氏の話は、大変興味深く時間の過ぎるのを忘れた。歴史家アーノルド・トインビーの言う「12・3歳までに民族の神話を学ばなかった民族は、例外なく滅びている。」という視点から見ると、氏の言うように「戦後、日本人が日本神話を知らなくなった事は、日本の危機だ。」と私も思う。遅ればせながらこの聴講を機会に、私も改めて勉強し直さなければと心に誓った。生涯学習だ!



## 平成24年12月9日 於: JR浦和駅西口 拉致問題解決に向けた街頭署名活動

北朝鮮による日本人拉致問題の早期解決を図る埼玉県議会議員連盟は、浦和駅西口で、10名(私も参加)の議員が、拉致問題の一日も早い解決を訴え街頭署名活動を行った。これは、北朝鮮人権侵害問題啓発週間(12月10日～16日)に合わせ、上田知事や「北朝鮮に拉致された日本人を救出する埼玉の会(救う会埼玉)」とともに行ったものだ。北朝鮮が拉致を認めてから10年が経とうとしているが、いまだ残された拉致被害者の方々の救出には至っていない。拉致問題の解決のためには、国民全体が「拉致は許さない」という強い意思を持つことが必要だ。拉致被害者家族連絡会や北朝鮮に拉致された日本人を救出するための全国協議会(救う会)では、今年を拉致被害者救出の勝負の年と位置づけ、1000万署名運動に取り組んでいる。



## 平成24年12月8日 於: 県央広域消防本部 普通救命救急講習

今回は、心肺蘇生法とAEDの利用を組み合わせた2010年基準の講座で、AEDの使い方を体験出来たのは本当に良かったと思う。色々な場所に備え付けられているAED、音声ガイド通りに使えば大丈夫だとは思いますが、多くの方々に実際に触れておいてほしいとも思った。



埼玉県議会 刷新の会 鴻巣支部  
**中屋敦慎 一 事務所**  
 〒365-0039  
 鴻巣市東3-11-18-103号  
 TEL 048-541-8110  
 FAX 048-541-0256  
 E-mail challenge@nakayashiki.net  
 ★県議会へのご質問、ご意見、ご要望 承っております

**編集後記**  
 1月も末。年末年始の気のゆるみから今年も風邪っぴき発行遅れお許しください。それにしても、小選挙区の選挙は怖いですね。予想はしていたものの3年半前と全く真逆のオセロゲーム。私としては、これを繰り返していると国力の摩耗になるだけだとも思いますが。まあ、それだけ期待の高かった民主党への政権交代ただだけに、「何だよ」という国民の怒りも大きかったって事ですよ。 慎一